

令和元年度 病害虫発生予察情報

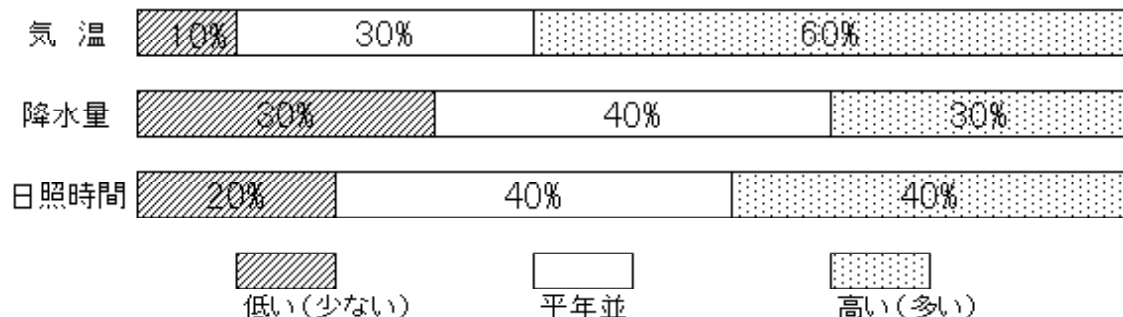
発生予報第6号（8月）

令和元年8月5日
島根県

予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	予想発生量		
普通作物	イネ	穂いもち	やや少ない		
		紋枯病	やや少ない		
		白葉枯病	少ない		
		ニカメイチュウ	平年並		
		ツマグロヨコバイ	やや多い		
		セジロウンカ	平年並		
		トビイロウンカ	やや多い		
		コブノメイガ	平年並		
		斑点米カメムシ類	平年並		
		果樹	ナシ	黒斑病	平年並
				シンクイムシ類	平年並
ハダニ類	やや少ない				
カメムシ類	平年並				
うどんこ病	少ない～やや少ない				
カキ	カキミガ	平年並			
	カメムシ類	平年並			

中国地方1か月予報(8月3日～9月2日・広島地方気象台8月1日発表)
<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



A. 普通作物

1) イネ

(1) 穂いもち

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 やや少ない

予報の根拠

① 7月下旬の調査では葉いもちの発生は県内でわずかに認められ、発生量は平年に比べてやや少ない。

② 向こう1か月の気象は、本病の発生にやや抑制的である。

(2) 紋枯病

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 やや少ない

予報の根拠

① 7月下旬の巡回調査における発生ほ場率は11.4%（平年16.1%）、発病株率は0.7%（平年2.3%）と平年に比べて少ない。

② 向こう1か月の気象は、本病の発生（発病株での上位進展）にやや助長的である。

- (3) 白葉枯病
 予報内容
 発生地方 県内常習発生地帯
 発生量 少ない
 予報の根拠
 ① 7月下旬の巡回調査では、発生を認めていない。
 ② 向こう1か月の気象は、本病の発生にやや抑制的である。
- (4) ニカメイチュウ (第2世代)
 予報内容
 発生地方 県内全域
 発生量 平年並
 予報の根拠
 ① 7月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は0% (平年5.5%)、被害株率は0% (平年0.2%) で発生量は平年並みである。
 ② 7月第6半旬までの予察灯における誘殺数は26頭 (平年47.4頭) と平年並みである。
 ③ 向こう1か月の気象は本種の発生にやや助長的である。
- (5) ツマグロヨコバイ
 予報内容
 発生地方 県内全域
 発生量 やや多い
 予報の根拠
 ① 7月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は63.0% (平年57.0%)、捕獲数は17.6頭/50株 (平年10.6頭) で発生量は平年に比べてやや多い。
 ② 7月第6半旬までの予察灯における誘殺数は140頭 (平年199.7頭) と平年に比べてやや多い。
 ③ 向こう1か月の気象は本種の発生を抑制する要因とはならない。
- (6) セジロウンカ
 予報内容
 発生地方 県内全域
 発生量 平年並
 予報の根拠
 ① 7月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は60.9% (平年66.1%)、捕獲数は11.2頭/50株 (平年27.5頭) で発生量は平年並みである。
 ② 7月第6半旬までの予察灯における誘殺数は平年に比べて少ない。
 ③ 向こう1か月の気象は本種の発生にやや助長的である。
- (7) トビイロウンカ (臨時情報第1号参照)
 予報内容
 発生地方 県内全域
 発生量 やや多い
 予報の根拠
 ① 7月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は10.9% (平年4.2%)、捕獲数は0.6頭/50株 (平年0.12頭) で発生量は平年に比べてやや多い。
 ② 7月第6半旬までの予察灯、粘着誘殺灯への誘殺数は平年並みである。
 ③ 向こう1か月の気象は本種の発生を抑制する要因とはならない。
- (8) コブノメイガ
 予報内容
 発生地方 県内全域
 発生量 平年並
 予報の根拠
 ① 7月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は13.0% (平年10.3%)、被害株率は0.2% (平年0.9%) で発生量は平年並みである。
 ② 7月第6半旬までの予察灯、粘着誘殺灯への誘殺数は平年並みである。
 ③ 向こう1か月の気象は本種の発生を助長する要因とはならない。
- (9) 斑点米カメムシ類
 予報内容
 発生地方 県内全域
 発生量 平年並
 予報の根拠
 ① 7月下旬に出穂しているほ場でのすくい取り調査では、カメムシ類合計で発生ほ場率は37.5% (平年57.3%)、平均捕獲虫数は1.48頭/20回振り (平年2.78頭) で発生量は平年に比べてやや少ない。主要種はアカスジカスミカメである。
 ② 7月第6半旬までの予察灯への誘殺数は61頭 (平年109.1頭) に平年に比べてやや少ない。

③向こう1か月の気象は本種の発生にやや助長的である。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

発生地方

県内ナシ（二十世紀）栽培地帯

発生量

平年並

予報の根拠

①7月下旬の巡回調査では、発病葉率10.2%（平年11.4%）であり、発生量は平年並みである。

②向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) シンクイムシ類

予報内容

発生地方

県内ナシ栽培地帯

発生時期

平年並

発生量

平年並

予報の根拠

①フェロモントラップ（安来市、出雲市）でのナシヒメシンクイ第1世代の雄成虫の誘殺盛期、誘殺数はともに平年並みである。

②向こう1か月の気象は本種の発生にやや助長的である。

(3) ハダニ類

予報内容

発生地方

県内ナシ栽培地帯

発生量

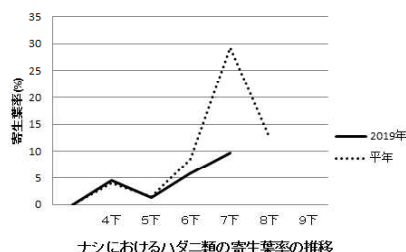
やや少ない

予報の根拠

①7月下旬の巡回調査では寄生葉率9.7%（平年29.3%）と平年に比べて少ない。

②向こう1か月の気象は本種の発生にやや助長的である。

③クワオオハダニが見られるほ場も散見される。クワオオハダニに効果の低い薬剤があるので薬剤の種類には注意が必要である。



ナシにおけるハダニ類の寄生率の推移

(4) カメムシ類

予報内容

発生地方

県内ナシ栽培地帯

発生量

平年並

予報の根拠

①予察灯（出雲市）での7月6半旬までのチャバネアオカメムシ、クサギカメムシ、ツヤアオカメムシの3種果樹カメムシ類の誘殺数は261頭（平年861.2頭）と平年に比べてやや少ない。

②向こう1か月の気象は本種の発生にやや助長的である。

2) カキ

(1) うどんこ病

予報内容

発生地方

県内カキ栽培地帯

発生量

少ない～やや少ない

予報の根拠

①7月下旬の巡回調査では、発病葉率1.6%（平年5.2%）であり、発生量は平年に比べてやや少ない。

②向こう1か月の気象は本病の発生にやや抑制的である。

(2) カキミガ（第2世代）

予報内容

発生地方

県内カキ栽培地帯

発生量

平年並

予報の根拠

①第1世代幼虫による芽及び果実の被害は平年並みであった。

②向こう1か月の気象は発生にやや助長的である。

(3) カメムシ類

予報内容

発生地方

県内カキ栽培地帯

発生量

平年並

予報の根拠

- ①予察灯（出雲市）での7月6半旬までのチャバネアオカメムシ、クサギカメムシ、ツヤアオカメムシの3種果樹カメムシ類の誘殺数は261頭（平年861.2頭）と平年に比べてやや少ない。
- ②7月下旬の巡回調査ではカキでの被害果率は0.4%（平年値1.6%）と平年並みである
- ③向こう1か月の気象は本種の発生にやや助長的である。

農薬の安全使用の徹底を！

- ・農薬の使用基準（適用作物、使用量又は濃度、使用時期、総使用回数、最終有効年月）を遵守する。
- ・防除履歴（使用日時と場所、作物名、農薬の種類と量）を記帳する。
- ・農薬散布時には周辺作物に飛散（ドリフト）しないように注意する。
- ・水田で使用する農薬の止水期間を守る。
- ・散布後は散布器具の洗浄を徹底し、空き容器は正しく処理する。
- ・病害虫の発生状況を把握し、必要最小限の農薬使用に努める。

○病害虫防除所のホームページでは発生予察情報の他、各種情報を掲載しています。

島根県病害虫防除所

TEL 0853-22-6772

FAX 0853-24-3342

ホームページ

<http://www.pref.shimane.lg.jp/nogyogijutsu/byougaityuu/>